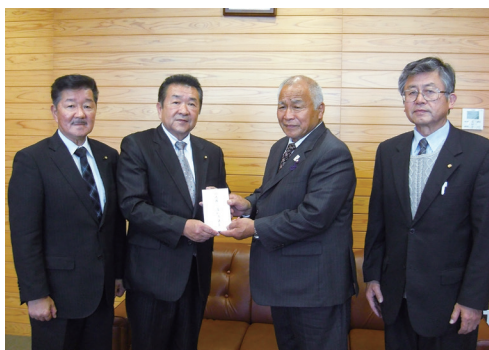


常総市議会、東海村議会より災害見舞金をいただきました

10月12日に発生した台風19号による当町の被災を受けて、常総市議会及び東海村議会より災害見舞金をいただきました。

この災害見舞金は、災害復興のため、大切にに使わせていただきます。



常総市議会 様



東海村議会 様

研修報告

議会視察研修

令和元年11月14～15日

神奈川県横須賀市 「終活事業」

横須賀市では、引き取り手の無い遺骨は、平成22年度に43柱、平成26年度は60柱と徐々に増えていく傾向にありましたが、「エンディングプラン・サポート事業（終活課題についての相談、支援プランの策定の保管、終活課題の解決に向けた連携・支援）」を開始した平成27年度は35柱と明らかに減少させる事ができたとのことです。

さらに、緊急連絡先、病院、薬、エンディングノートの保管先、遺言書の保管先、お墓の所在地等の情報を希望者なら誰でも登録することが出来る「私の終活登録事業」を開始したことで、登録者が倒れて入院や、徘徊して保護されたときに、市は消防・警察・病院・福祉事務所等からの照会に即回答することができ、市・登録者・救助者に大きなメリットがある制度です。

終活事業とは、自分自身を見つめ直し、地域のコミュニティを再考する事ができる、非常に大切な事業であると実感した研修でした。



東京都大田区 「森ヶ崎水再生センター」

東京都下水道局の森ヶ崎水処理センターは、日量120万m³以上の下水を処理する、都内でも最大の下水処理場です。

下水処理場内では、汚泥ガスによる発電、太陽光発電、非常用発電を有し、施設の電気を賄う。また、巨大なNAS電池を配置・蓄電し、料金の高い昼間にこの電気を使うといった運用をしています。

これにより、年間約13億円の電気代が、約7億円になり、年

間約6億円ものコスト縮減となり、契約期間である20年間で、約128億円の財政支出の縮減が見込まれているとのことでした。

また、汚泥消化ガス専焼ガスエンジン発電、NAS電池や灯油燃焼ガスタービン発電、太陽光発電などにより複数の電力源の多様化が図られ、電力確保の信頼性と停電リスク、電力コストリスクが分散できる事により、災害に強い施設になっています。

各施設の特性に見合った最適な電力確保方法を見いだしていかなければならないと再確認ができたものであり、電気のみならず、PFI等の手法により民間のノウハウを活用することが、今後ますます必要になると感じ非常にためになる研修でした。

